

令和元年 6 月 3 日

オランダ柔道連盟教育普及施策 調査報告書

期間：平成 31 年 3 月 27 日～4 月 1 日

報告者：教育普及委員会委員 ○曾我部晋哉
鎌塚智樹

I. はじめに

平成 31 年 3 月 27 日～4 月 1 日まで、(公財) 全日本柔道連盟派遣により、現地に赴きオランダの柔道教育システムの調査を実施した。各国の現状並びに教育システムについての報告を行う。

II. 内容

1. 日程

日付	時間	場所・行事	内容
2019.	15:20	アムステルダム空港	空港到着
3.27	18:00	Papendal Olympic Trainig Centre	パペンダル・オリンピックセンター到着
3.28	11:00	Judo Bond Netherland との会議	・トップスポーツコーディネータ Pascal Bakker 氏 ・タレント発掘コーチ Chiel Willems 氏 ・教育普及コーディネーター Benny Van den Broek 氏
	16:00	・Sichting Top Judo Nijmegen ・Tomoda Judo	住所：Rosa de Limastraat 23, Nijmegen 初心者クラス、地域のクラブが集まったの乱取練習
	19:00	・Judo club Nuth	Dutch Commission Judo for disabled people Chairman Frans Brouwer 氏 障害者柔道の視察
3.29	15:30	・Vitesse Football Club 視察	・施設内の見学
	16:30	・Vitesse Football club Judo training for u7 and U9	Trainer: Tom Willemsen 氏, Binnie Willemsen 氏
3.30	10:00-16:00	National Budodag 2019	オランダ国内の武道の祭典。様々なターゲットを対象とした講習会や講演会が行われた。13:30-14:45 まで Masterclinic を担当し講習会を行った。
3.31	:00-11:00	アムステルダム	

2. オランダの基本情報

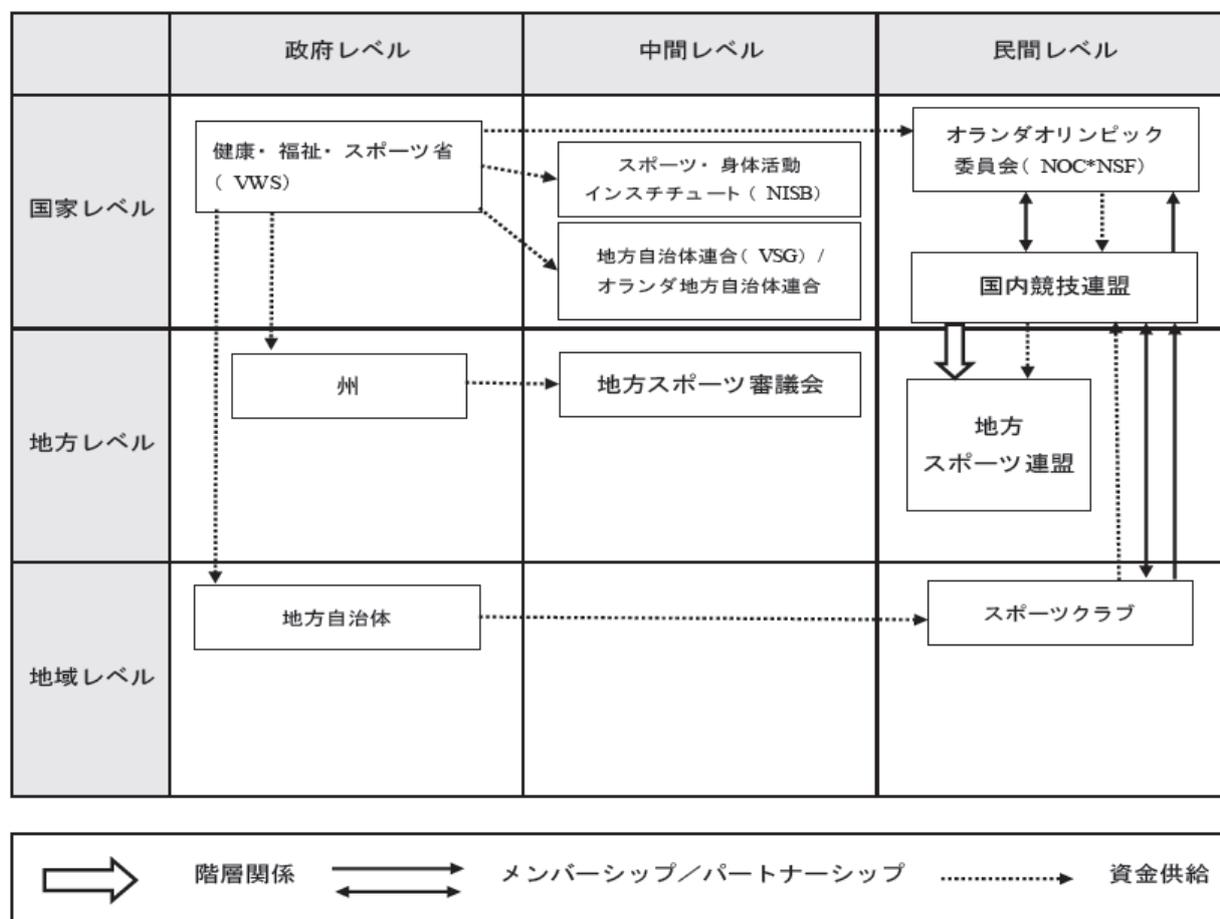
1) オランダの基礎データ

オランダの面積は 41,864㎢であり、九州と同程度の面積である。総人口は、1,718.4 万人(2017 年)¹⁾であり、我が国の 1 億 2,464.8 万人(2017 年)²⁾の 14%程度の人口である。政体は、君主の権力が憲法により制限される立憲君主制をとり、経済成長率 2.8%¹⁾、失業率 3.9%¹⁾、合計特殊出生率 1.66 人³⁾となっており、成熟した社会傾向を示す。特にオランダにおいて特筆す

べきは、外国人労働者受入れ制度による移民の受入れである。第1段階は1945年～50年代に旧植民地であったインドネシアから約30万人のインドネシア系オランダ人の流入、第2段階は1960年代の地中海沿岸諸国から労働移民の受入れによるトルコ、モロッコからの移民の滞留、第3期は1970年代旧カリブ植民地スリナムがオランダから独立する際の大量の駆け込み移民によるものである⁴⁾。1980年代後半以降も難民及び庇護申請者数は増加し、貧富の格差、教育水準、治安の問題など様々な課題を抱えている⁴⁾。

2) オランダのスポーツ政策

オランダでは、スポーツ政策の中核機関として健康・福祉・スポーツ省が設置されている(図1)。



Note: NISB=National Institute for Sport and Physical Activity, VSG=Union of Local Authorities, VNG=Association of Netherlands Municipalities

図1. オランダにおけるスポーツ組織⁵⁾

オランダにおける世界レベルの選手育成の中核を担うのがオランダオリンピック委員会 (NOC*NSF) である。NOC*NSF は、オランダオリンピック委員会 (NOC) とオランダスポーツスポーツ連盟の連携組織である⁶⁾。オランダの人口の約1/3にあたる600万人が何らかのスポーツクラブに参加しており⁷⁾、NOC*NSFによると28,000のスポーツクラブと88の団

体が NOC*NSF に加盟している 5)。オランダ柔道連盟（Judo Bond Nederland 以下 JBN）もオランダオリンピック委員会に管轄にあり、地方のスポーツ連盟を統括している（図 1）。健康・福祉・スポーツ省は、2011 年に健康・福祉・スポーツ省によって”policy letter sport” とした 4 つの閣議決定を行った。6)。その内容の 1 つ目は ”sport and exercise in the neighborhood”：近隣におけるスポーツと運動、2 つ目は、 ”Towards a safe and secure sport climate”：安全・安心なスポーツ環境を目指して、3 つ目は”elite sport and events policy”：エリートスポーツとイベント政策、4 つ目は” Olympic plan 2028”：オリンピック計画 2028 である。この政策により、2009 年のロッテルダムの世界選手権に対しては、政府より多額の資金が投入された。

また、2016 年には NOC*NSF によって第 4 次国家戦略スポーツ政策計画として「スポーツアジェンダ 2016」が策定され、より国家的に競技スポーツを成功へ導くためのシステムが構築され、資金面でのサポ一体制が示された 5)。

3. 柔道の連盟登録数

1) 柔道連盟に所属するクラブ数

JBN は、柔道以外に柔術、合気道の 3 つの競技を統括している。JBN に登録するクラブは、柔道が最も多く、349 クラブあり、柔術を併設するクラブが 174 クラブ、合気道を併設するクラブが 13 クラブ、3 競技を実施しているクラブが 43 クラブある。2018 年には、新たに 8 クラブが登録した。

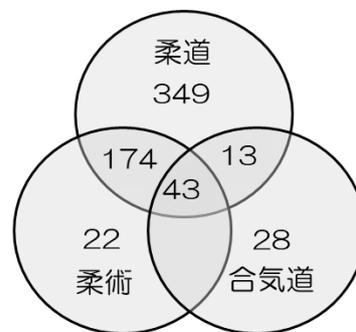


図2. JBNに登録しているクラブ数

2) JBN 柔道登録者数の推移

図 3 及び表 1 に JBN 登録人口の推移を示す。



図3. JBN柔道登人口数の推移(2013-2018)

表 1.JBN 登録人口の増減

	登録人口(人)	前年度からの人口の増減(人)	前年度からの人口増減(%)	2013年からの人口の比較(人)	2013年からの人口増減(%)
2013	47785	-	100	-	100
2014	46243	1542	96.8	1542	96.8
2015	43515	2728	94.1	4270	91.1
2016	42062	1453	96.7	5723	88.0
2017	40200	1862	95.6	7585	84.1
2018	37858	2342	94.2	9927	79.2

オランダにおける JBN 登録人口は、2013 年の 47,785 人から毎年減少し、2018 年には 37,858 人となり 2013 年を 100%とすると、79.2%まで減少した。この原因として、オランダでは、柔道を他競技と並行して行うことが多く、特に 12 歳以下の試合に出場しない選手の登録が減少しており、連盟として JBN に登録を促すポスターを作成するなどして対策をとっているが、年々減少傾向の一途を辿っている。

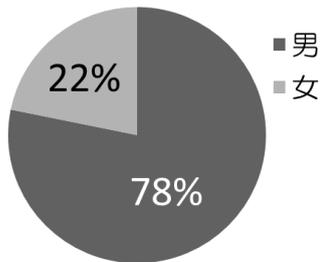


図 4. JBN登録者男女の割合

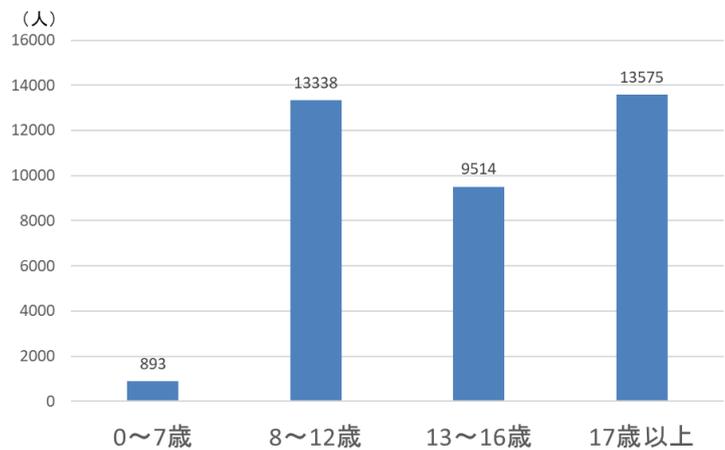


図 5. 年齢区分別登録者数

2019 年 1 月現在の JBN 登録者数 (37849 人) の男女の割合は、男性 78% (29,596 人)、女性 22% (8,253 人) であり、男性登録者数は女性登録者数の約 3.6 倍であった (図 4)。年齢区別の登録者数をみると、12 歳以下で全体の 35.7%を占める。

4. 指導者育成制度

1) 指導者有資格者数

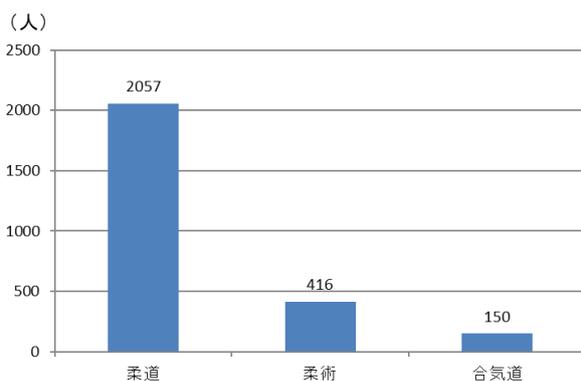


図 6. 指導者有資格者数

柔道クラブを運営するためには、JBN の認める柔道教師を置かなければならない。この柔道教師資格は、JBN の資格であり、オランダが認める国家資格ではない。武道各種目の指導者有資格者数は、柔道 2057 人、柔術 416 人、合気道 150 人であった (図 6)。

表 2.オランダの指導者資格

資格レベル	名称	役割	年齢	費用	段位	講習時間
Level 1	アシスタント	柔道教師の資格ではなく指導アシスタント	18歳以上	無料	—	—
Level 2	コースリーダー	柔道教師のもとでの指導	18歳以上	800 €	—	—
Level 3	柔道教師A	初級柔道教師として指導	18歳以上	1,500 €	2段以上	CIOS40日×8時間の講習 or JBN20日×8時間の講習
Level 4	柔道教師B	上級柔道教師であり昇段審査ができる	18歳以上	1,800 €	3段以上	CIOS40日×8時間の講習 or JBN20日×8時間の講習
Level 5	柔道教師C	特別柔道教師でありオリンピックの指導	18歳以上	特別条件		

オランダの指導者資格は、Level 1～Level 5 までであるが、有資格者としては Level 2～Level 5 までの 4 種類となる。この指導者資格は 18 歳以上であれば誰でも受講することが出来る。資格取得後の更新の義務はないが、指導者の多くは JBN が開催する指導者のための講習会に参加している。指導者資格の講師は、CIOS(体育教師育成校)の柔道を専門とする講師や JBN に登録している柔道教師が担当する。場合によっては、特別講師を招聘することもできる。柔道教師 A の講習会は、事前に JBN より周知され、国内の数か所と、3 か所の CIOS で開催される。また、教師 B の講習会も国内数か所と 3 か所の CIOS で講習会が開催される。現状では、オランダでの指導者育成システムについては、大きな問題は発生していない。

柔道教師 A のランクの指導者は、柔道の指導で生計を立てているのではなく、通常は別の職業を持っている。柔道教師 B の多くは、柔道教室の経営の他にフィットネスクラブを併設して運営している。このようなシステムはオランダでは一般的であり、国内に約 350 の道場がこのような形式である。柔道教師 C のみが、オリンピックレベルの選手育成に携わることが出来るが、この資格は NOC*NSF から取得しなければならず、NOC*NSF と JBN から推薦を受ける必要がある。

2) 年齢別指導者テキスト

オランダ柔道連盟では、年齢ごとに指導の目的、方法を明確にした指導テキストを作成している。発育・発達の観点から PHV (Peak Height Velocity) 前後の指導についても記載されている。年齢別指導法の区分は、4 歳～8 歳 (黄)、8 歳～12 歳 (オレンジ)、12 歳～15 歳 (緑)、15 歳～18 歳 (青)、18 歳～21 歳 (茶)、21 歳以上 (黒) で色分けされている (資料 1,2.)。



資料 1. オランダ柔道連盟指導テキスト



資料 2. 指導テキストの年齢区分

5. 教育普及活動

1) JBN パスポートの活用

欧州で普及している柔道パスポートは、各国で様々な特徴がある。中でもオランダの JBN パスポートは、少年・成人とも同じパスポートであり、シンプルに事務的な内容が記載できるようになっている。柔道パスポートによって昇級の記録、昇段試合での記録、講習会の記録を一括管理している。



資料 3. オランダ柔道連盟の JBN パスポート

2) オランダ武道 DAY(Nationale Budodag)の開催

年1回、JBN 主催のオランダ武道 DAY (Nationale Budodag) がナショナル・オリンピックセンターで開催されている(写真1)。この武道 DAY では、子ども達を対象とした強化選手や強化コーチによる指導の他、形の講習会、学会形式の発表、シンポジウム、指導者講習会、強化選手のサイン会、遊びを取り入れたイベントなどが開催されており(写真2~5)、毎年1000名を超える人が参加している(図7)。



写真1. ナショナル・オリンピックセンター

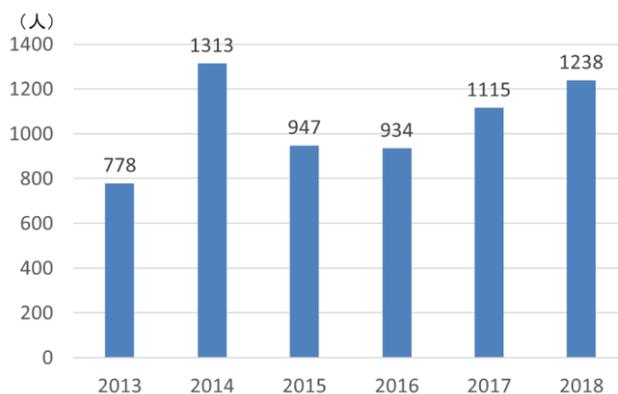


図7. オランダ武道 DAY の参加推移



写真2. 寝技講習会



写真3. レクリエーション柔道



写真4. 強化コーチによる講習会



写真5. 有名選手のサイン会

3) 子どもの形の普及—新たな登録者の創出—

オランダ柔道連盟では、試合に参加しない子ども達の登録を促進することと、形の普及のために投の形を基本とした「Kodomo Nage no Kata」を考案し（写真6）、普及を行っている。投の形に含まれる肩車などの技は、発育段階の子どもにとって好ましいものではない。そこで、脊柱に影響の及ぼさない技で代用することによって、幼少期から形を普及させるような取り組みを行っている。



写真6. Kodomo Nage no Kata 普及ポスター

6. サッカークラブにおける柔道の導入—フィテッセの視察—

1) フィテッセの概要

オランダのトップリーグであるエールディビジに所属するSBV フィテッセ(SBV Vitesse)は、オランダ・ヘルダーラント州・アーネムを本拠地とするサッカークラブチームである(写真7)。2017年4月、クラブは125年の歴史の中で初のKNVB(Koninklijke Nederlandse Voetbal Bond)カップで優勝した。

2) フィテッセでの年間トレーニング

フィテッセは、年齢別にオランダ国内から選抜された選手に幼少期から育成を行っている。年間の練習時間は以下の通り。

- U9 : 1週間に2回の練習 (120分)
- U10 : 1週間に3回の練習 (120分)
- U11: 1週間に3回の練習 (120分)
- U12 : 1週間に3回の練習 (120分)
- U13,U14,U15,U16,U17,U18,,U19 : 1週間に4回の練習 (180分)

週末は試合が入ることが多いが、それ以外は練習を行っている。また、U15までの選手には、週1回45分～60分間、柔道、体操、陸上、リズム、ウェイトトレーニングの時間を設けている。柔道のトレーニングでは、サッカーに利用するための柔道の要素を取り入れたトレーニングの他、本格的な寝技、立技を実施しており、柔道選手としても技術レベルが高い（写真8～10）。



写真7. フィテッセ正面



写真8. サッカー選手に礼儀を教える



写真9. 受身からの素早い立ち上がり



写真10. 乱取

Ⅲ. おわりに

オランダでは、柔道連盟に登録している人数は少ないものの、柔道の有用性については社会的に認知されている。世界的な有名なサッカークラブであるアヤックスも、育成期の子ども達のトレーニングに柔道を取り入れていることを公表している。また、移民の多いオランダにおいても礼儀面やマナーの教育に柔道は適しており、広く普及させるために子どものための形も創作し工夫している。我が国においても、他競技の競技力向上の基礎能力育成として、また人間社会の基盤として柔道が有用であることを社会に啓発する必要があるのではないかと考える。

参考文献

1)外務省：オランダ王国基礎データ.

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/netherlands/data.html>, 2018.12.7.

2)総務省：人口推計.報道資料,p1,2018.

3) World Bank - Data Indicators, <https://data.worldbank.org/indicator>,

4)労働政策研究・研修機構：欧州における外国人労働者受入れ制度と社会統合.労働政策研究報告書（59）179-180,2006.

5) 山口志郎,山口泰雄,青山将己：オランダにおけるスポーツ政策と子どものスポーツ振興プログラムに関する事例研究.生涯スポーツ学研究:13(2)63-74,2016.

6) Waardenburg, M., & Bottenburg, M. : Sport policy in the Netherlands. *International Journal of Sport Policy and Politics*, 5 (3) : 465-475, 2013.

7) 山口志郎：持続可能なスポーツ・フォー・オールとは？：第23回 TAFISA ワールドコンGRESへの参加を通して. *体育・スポーツ科学*, 23: 81-87,2004.